

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	アメリカ・カリフォルニア州立大学サンバナーノ校				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	半年	学科	世界教養
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	何とか理解できた
学習成果	慣れもついてきて、授業中に現地の人たちの前でも、発言を怖気づくことなく、出来るようになりました。最後の英語の授業で、プレゼンテーションを一人で行う機会がありましたが、なんとか工夫を加えながら、例えば私の説明が分かりにくかったら、いつでも突っ込んでねと事前に一言伝えたりして、自分のペースに持っていき、発表する事ができました。世渡りがうまくなった気がします。
目標達成度	達成できた
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	とにかく何でも英語漬けと自分に課していたので、日本人同士の会話も、携帯電話の設定も、ウェブで記事を読むときも、論文を英語で拾ってきて読むようにしていました。最初は長文の英語を読むことに慣れておらず、読み切るまでに大変時間がかかりましたが、今では細かいことは気にせずに、大まかなことがわかるほどに、長い文章を読むことになりました。何回も、飽きなく読むことを習慣づけると、力がつくと思います。勉強している気持ちではなく、純粋に興味があって気になるから読むというスタンスをとると、より身近にやる気が湧くかもしれません。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	日本人同士の仲も、出かけたり授業の宿題の助け合いもあって、深まりました。韓国人の友だちもできて、新しい文化を知るきっかけがで、また彼女たちの英語力に感化されて私も頑張らないと、背中を押されました。 現地のアメリカの人とも、友達が思ったよりもできて嬉しかったです。春休みにジムの主催でキャンプがあって、それに応募をして友達を新しく4人作れました。留学生が私一人とあとインド人の男の子一人で、少し心細く感じましたが、カヌーを二人で漕ぐときに、話すきっかけがあったり、女の人どうしてもご寝をするときにも、話をして、楽しかったです。日本語授業のアシスタントもしたさい、そこでも日本に興味のある学生さんたちと日本語の会話練習をしたり、外に遊びに連れて行ってもらったりと、何かと繋がりができました。
中間報告からの変化	広く広く友達の輪を広げることを、意識しました。私は人見知りで、日本のクラスでもめったに自分から話しかけることは無かったのですが、留学中は、とにかく色々なイベントごとに顔を出して、隣りに座った人に話しかけてみたり、先生に質問を授業後にしたり、積極的でした。ルームメイトとも毎日全員と話そうと、決めていたり、1日が始まる時点で、今日の友だちに関する目標を一つ立てて、学校に向かっていました。一つのゴールを一日に作る事が、意識が芽生えていい習慣だと思います。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	学習に重点を置けた生活ができたと思います。こんなに課題に一生懸命、細かいところまでこだわって自分でインタビューを行って、頑張ったことはなかったので、いい機会でした。むちゃくちゃに頑張る事が、恥ずかしくないと感じました。今まではなにか調べることがあると、ネットのウィキペディアのような簡単に安い情報だけを参考にしていたが、あちらでは図書館の本や、論文の文献、さらに人に直接聞いて調査をするなど、複数の方法で自分の課題に向き合うことができました。アルバイトや、自分のやらないといけない事から解放された留学期間だったので、勉強一本に絞れる、貴重な時間でした。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	イギリス・バンガー大学				
留学制度	TESS II	留学期間	1 年	学科	英米語
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	何とか理解できた
学習成果	英語力に関しては、リスニングの能力がかなり上がったのを実感している。最初は強いイギリスアクセントの英語を聞き取るのに苦労したが、今は来た当初よりも聞き取れる割合が増えた。また、英語を話す機会も当然ではあるが急増したので、英語でナチュラルなスピードの会話をするにだいぶ慣れた。学部の授業に関しては、言語学を専攻しているが、NUFS で履修した内容がこちらの授業で少し触れられることもあり、興味深い。専門用語も多く未だに予習復習をしつつ何とかついていっている状態だが、楽しく履修できている。 まず中間報告では、英語学習に関して、最初はイギリス英語に苦しんでいたが来た当初より聞き取れる割合が増えたを書いてしたが、当然ではあるかもしれないがその割合はさらに増えた。その中で、理解するのに精いっぱいにならず、「そういう表現があるんだな」と吸収出来たり、「こういう冗談に使えるんだな」と考える余裕も生まれるようになった。また、英語を話すことがより楽になった。留学半年の時点では、英語を話し続けた日は少し疲れたなと思っていたが、今では英語を一日使い続けてもあまり疲労を感じなくなった。そして、日本語を話しているときの「自分」の7割ぐらいは英語で出せるようになった。これは個人的にすごく大きな違いで、そのおかげで友達を作るのもかなり楽になった。学部授業に関しては、中間報告では「予習復習をしつつ何とかついていっている状態」と分析していたが、この点は授業によって状況が変わっていないものもあれば、もう少し余裕をもって理解できるようになったものもあった。主に専攻している言語学の授業では、専門用語でつまづくことが減って、同じ教授の授業だったこともあり授業は楽しみながら比較的余裕をもって履修できた。クラスの前で発表することも以前より怖くなくなった。しかし、新たに挑戦してみた社会学の授業では苦戦することが多く、自分なりに全力で取り組んだ課題のスコアがあまり良くないこともあった。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	長期休暇中に英語の語学力を上げたので、それが一番大きく影響したと思う。あとは、図書館や自習スペースを利用する時間が増えて、その分テスト前や課題前の準備期間に勉強にしっかりと時間を費やせた。また、どうしても課題につまづくことがあるときは先生や友達に相談することができるようになった。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	最初のセメスターでも自分の中では頑張って外に出て新たなことに挑戦したり友達を作ったりすることを意識していたが、第二セメスターではその前期とは比べ物にならないほど活発になることができ、より留学を楽しめている実感があった。友達もたくさんできたので、いろいろな背景を持つ人々と会話をする機会に恵まれ、自分の視野を広げることにつながった。最後には日本に帰りたくないと思うほど充実した毎日を送れるようになっていた。
中間報告からの変化	中間報告ではセメスターを通して最初にできた5, 6人の固定の友人と過ごすことが多かった、と書いてあるが、第二セメスターにも固定のメンバーはいたものの、より幅広い人と関わるように自然となったことで毎日が退屈のない日々になった。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	良かった点は、普段の家事でそれなりに手を抜いたことである。自炊や掃除も忙しいときはあまり完璧主義にならないようにすることで自分にストレスをかけすぎないようにした。友人関係については、英語ではどうしても言語の壁があるので100%日本語を話しているときの自分を出せるわけではないので、言葉でカバーできない分を行動でカバーするようにした。特に仲良くなれるまでは、なるべくこちらから誘ったりメッセージを送ることで仲良くなりたい意思をなるべく示して距離を縮めるようにした。反省している点は、就職活動をあまりすすめられなかったことである。出発前は留学生生活と同時進行で就活も少しは進めたいと思っていたが、時差の壁は大きく、また時間があっても現地の友達と遊ぶことを優先していた為、説明会やオンラインイベントに参加する程度で終わってしまった。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	オーストラリア・サザンクロス大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	1 年	学科	英米語
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	何とか理解できた
学習成果	能動的な行動力が身についた、自分の創造力を応用する大切さを学んだ、批判的な思考を持てるようになった
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	スケジュール管理がうまくできておらず、課題提出が遅れそうになったことが度々あった・授業のない日や空き時間には地域の図書館や大学の空き教室で自主学習に時間を費やした・レポートや課題で不安に感じることもあるときは授業後に先生に確認や添削をお願いした・先生が勧めてくださったサイトやアプリを活用した

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	国籍問わず友人関係が作れたり、ホストファミリーと本当の家族のように打ち解けることができました。
中間報告からの変化	英語で話すことに抵抗がなくなり、国籍問わず誰とも話すことができるようになった・自分の伝えたいこと言いたいことをより自由に言えるようになった
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	生活面でも友人面でも相手の気持ちを考えることを常に意識していました。また、たとえ自分の英語が正しい英語ではなかったとしても、自分の本当の気持ちや意見を大切にすることを意識しました。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	カナダ・レイクヘッド大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	1 年	学科	英米語
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	何とか理解できた
学習成果	語学コースと違って話すスピードを合わせてくれたりすることがないので、予めその日の授業がどのような内容を取り扱うのか予習をする必要があり、また復習も内容理解のために必要でした。分からない部分があれば積極的に質問をするようにしました。その過程で、主体的に授業に取り組む姿勢と、分からないことをそのままにしない習慣が身に付きました。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	TOEIC の勉強は計画的に進めることが出来たと思います。語彙が弱点だったので単語帳を寝る前に少しでも目を通して、リスニングも並行して進めることができました。反省している点は、期末に向けて計画的に勉強や課題を進めることができなかったことです。教科書や授業の内容を理解するのに時間がかかり、遅れながら内容を理解している状況でした。友達やサポーターの人に助けを求めて、自分だけで解決しようとしなくてもよかったと反省しています。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	今までは英語学習の意義を見出すことが出来ませんでした。留学先で現地の友人に出会い、英語学習を継続することで、よりスムーズに自分の考えや出来事を共有したり談笑できるようになりたいと思うようになりました。帰国しても連絡を取り合い、いつかカナダにもう一度戻りたいと思うほど良好な人間関係を築くことが出来てとても価値ある留学になりました。
中間報告からの変化	後期からは学部授業が始まりキャンパスに生徒が戻ってきたので部活動も同時に始まりました。サッカー部の一員として活動することが出来たので現地の生徒と交流する機会も増え、授業外で時間を共にすることのできる友人関係が増えました。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	日本人の評判を下げないように常にモラルに反する行動をしないように気を付けました。国際豊かな環境だったので、宗教や政治・出身地などの会話は自分からはしないように配慮しました。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	台湾・国立台湾大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	1 年	学科	中国語
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	問題なく理解できた
学習成果	複数の中国語の授業を履修したことで、中国語の知識が全般的に向上した。正規留学生向けの授業に参加したことで、中国語のリスニング能力も鍛えられた。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	授業がない日にもなるべく中国語を聞くようにして、意識的に中国語を使う機会を増やした。1つの課が終わるごとにあるスピーチで、なるべく暗記して話せるようにすることで新しい表現を覚えるようにした。今学期は復習の時間があまり取れなかったのが反省点だと思う。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	様々な国の人と関わったことで、無意識のバイアスに気づかことができ、視野が広がったと感じる。
中間報告からの変化	特になし
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	して良かったこと：あまり期待しすぎない。今までの経験や常識が通じないのが当たり前であると意識しておく。 配慮した点：無闇に兩岸のことについて話題にしない。 反省点：日本と台湾の歴史についてもっと予習しておく良かったと感じた。台湾には日本統治時代の建造物がたくさん残っているので、出掛けた先でも知識があればより面白いと思う。